

⑫ 公開特許公報(A)

平2-81546

⑤ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)3月22日

H 04 M 1/274

6914-5K

H 04 N 1/56

6914-5K

H 04 N 1/32

L

6940-5C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 ファクシミリ装置

⑯ 特 願 昭63-232584

⑰ 出 願 昭63(1988)9月19日

⑱ 発 明 者 大 下 富 実 代 兵庫県尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三菱電機株式会社

通信機製作所内

⑲ 出 願 人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑳ 代 理 人 弁理士 田澤 博昭 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

ファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

文字の名称、この文字の名称に対応する電話番号およびこの文字の名称の順位を有する短縮ダイヤル番号を複数個格納した記憶部と、前記文字の名称および短縮ダイヤル番号を表示するディスプレイと、前記記憶部内の短縮ダイヤル番号を前記文字の名称の順位をもとに順方向にあるいは逆方向に検索して、この検索の結果特定した前記短縮ダイヤル番号とこの短縮ダイヤル番号の文字の名称とを前記ディスプレイに出力する検索手段と、この検索手段に順方向の検索の契機を与える検索キーもしくは逆方向の検索の契機を与える逆方向検索キーあるいは前記検索キーおよび前記逆方向検索キーとを備えたファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、あらかじめ相手先の名称と番号を

登録することのできる短縮ダイヤルの機能をもつファクシミリ装置に関するものである。

〔従来の技術〕

第7図は三菱電機株式会社発行ファクシミリ M E L F A S 6 0 0 0 シリーズ取扱説明書内の3-3、短縮ダイヤル送信の説明ページに記載されている従来のファクシミリ装置のコントロールパネルを示す正面図であり、図において、1はディスプレイ、2は短縮ダイヤル入力時の「短縮」の設定キー、3は「0」～「9」までの数字を記したテンキーであり、短縮ダイヤルは「00」～「99」までの100個所が設定できるようになっている。5はストップキー、6はスタートキーである。

次に動作について説明する。オペレータがあらかじめ登録された短縮ダイヤル番号を使用するとき、その短縮ダイヤル番号を記憶していない限り、一つ一つ設定キー2を用いてテンキー3を用いて、「00」～「99」までの短縮ダイヤル番号を入力する。このようにして希望する相手先短縮

ダイヤル番号がディスプレイ1に表示されるまで短縮ダイヤル番号の入力をくりかえす。

〔発明が解決しようとする課題〕

従来のファクシミリ装置は以上のように構成されているので、希望する相手先の短縮ダイヤル番号を求めるためには、オペレータが登録されている短縮ダイヤル番号を覚えておくことが必要で、相手先短縮ダイヤル番号を覚えていない場合、希望の相手先短縮ダイヤル番号を検索するまでに余計な時間がかかるなどの問題点があった。

この発明は上記のような問題点を解消するためになされたもので、簡単なキー操作を行なうことによって希望する相手先短縮ダイヤル番号を容易に検索することができるファクシミリ装置を得ることを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

この発明に係るファクシミリ装置は、アルファベットまたはカタカナのような文字で、あらかじめ登録された相手先の名称、この名称に対応する電話番号およびこの名称の順位とを有する短縮ダ

とをディスプレイに表示させて希望する相手先短縮ダイヤル番号を選び出す。

〔実施例〕

以下、この発明の一実施例を図について説明する。第1図において、1は検索した短縮ダイヤル番号およびその検索した短縮ダイヤル番号に対称するあらかじめアルファベットで登録された名称などを表示するディスプレイ、2aは短縮ダイヤル番号指定のためのキーになるとともに、アルファベット順に登録された相手先の名称に対応する短縮ダイヤル番号を選びだすために使用される検索キー、3は「0」～「9」までの数字を記したテンキー、4は検索キー2aで検索した短縮ダイヤル番号とは逆方向のアルファベット順に短縮ダイヤル番号を検索するための逆方向検索キーである。なお、5はストップキー、6はスタートキーである。

第2図は第1図に示すファクシミリ装置のコントロールパネル内に内蔵されている中央処理装置(以下、CPUという)とランダム・アクセス・

ダイヤル番号を複数個格納した記憶部と、この記憶部内の短縮ダイヤル番号を前記名称の順位をもとに選び出す検索手段と、この検索手段で選び出した短縮ダイヤル番号と対応する文字の名称とを表示するディスプレイと、順方向に短縮ダイヤル番号を選び出すための検索キーと逆方向に短縮ダイヤル番号を選び出すための逆方向検索キーとの両方あるいはどちらか一方のキーとを設けたものである。

〔作用〕

この発明における検索手段は検索キーの押下を契機として、相手先の短縮ダイヤル番号を検索して、その短縮ダイヤル番号とそれに対応するあらかじめ登録されたアルファベットまたはカタカナ等の文字の名称とをディスプレイに表示させるか、あるいは逆方向検索キーの押下を契機として検索キーの押下を契機として検索した時とは逆方向に相手先の短縮ダイヤル番号を検索してその短縮ダイヤル番号とそれに対応するあらかじめ登録されたアルファベットまたはカタカナ等の文字の名称

メモリ(以下、RAMという)の部分のブロック図であり、図において、7は検索プログラム(図示せず)と共に検索手段となるCPU、8は記憶部となるRAMであり、このRAM8にはあらかじめアルファベットの相手先の名称とそれに対応する短縮ダイヤル番号が登録されている。

次の第1表は現在RAM8に登録されている短縮ダイヤル数(例として4)のアルファベットの名称と登録番号などを示す。

(第 1 表)

A	B	C	D
アドレス1	3	F L Q W	1 2 3 5 5 1 2
アドレス2	1	C U B A	7 8 9 1 2 3
アドレス3	2	D A Y	0 6 1 2 5 5 4 3
アドレス4	4	T O O L	3 2 1 6 0 1 4

この第1表において、「A」は短縮ダイヤル番号に対応しているアドレスナンバ、「B」はアルファベット順位(A, B, C, …順)、「C」は各短縮ダイヤル登録名称、「D」は各短縮ダイヤ

ル番号に対応する電話番号をそれぞれ示している。

また、アドレス1は短縮ダイヤルデータ格納エリアの先頭アドレスおよび短縮01のデータ格納エリアの先頭アドレスを示す。

アドレス2は短縮02のデータの先頭アドレスを示す。同様に、アドレス3、アドレス4はそれぞれ短縮03、04のデータの格納エリアの先頭アドレスを示す。

次に動作について説明する。第3図はその動作の流れを示すフローチャートであり、まず、ステップST1でファクシミリ装置に送信すべき原稿をセットして、次にあらかじめ登録された短縮ダイヤル番号の検索を行う。

この第3図の例では、「01」～「03」の短縮ダイヤル番号から所望の短縮ダイヤル番号を検索する場合を示しており、ここでは短縮ダイヤル番号「01」～「03」のそれぞれに対応する名称「FLQW」、「CUBA」、「DAY」のアルファベットによる名称はあらかじめ第2図のRAM8に登録されているものとして説明を進める。

り一番最初の順位をセットし、ステップST16に進み、また、ステップST15では短縮ダイヤルXXのアルファベット順位+1を変数XにセットしてステップST16に進む。

ステップST16では、RAM8の次のアドレスに格納されている名称のアルファベット順位と変数Xを比較して、ステップST17で一致していれば、このアドレスに格納されているデータをステップST18でディスプレイ1に表示する。

すなわち、この場合はアルファベット順位が3である短縮ダイヤル「01」とその電話番号「1235512」と「FLQW」を表示する。オペレータはこのデータを見て所望とする短縮ダイヤル番号とそれに対応する名称であれば、スタートキー6を押下して、セットされた原稿の送信を行う。

また、ステップST18の処理の結果、第3図に示すステップST3で表示した短縮ダイヤル番号「01」とそのアルファベットの名称「FLQW」がオペレータの希望する短縮ダイヤル番号で

第4図は第2図に示すCPU7の動作の流れを示すフローチャートであり、ステップST11では第1図のディスプレイ1にRAM8から読み出した第1表で示したアドレスXXのデータが表示されている。

つまり、第1図のテンキー3の「0」、「3」が順次押されると、短縮ダイヤル番号「03」が押されたことになり、CPU7はステップST2に示すように短縮ダイヤル番号「03」、アルファベットの名称「DAY」および電話番号「06125543」を出力し、ディスプレイ1がこれらを表示する。

次いで、第1図の検索キー2aが押されるとCPU7はこの時表示されている短縮ダイヤル番号（この場合「03」）の第1表「B」欄の短縮ダイヤルのアルファベット順位と短縮ダイヤル数（Number）とが一致しているか否かを判断し、一致している場合には、ステップST14に進み、一致していない場合には、ステップST15に進む。

ステップST14では、変数Xに「1」、つま

なければ、オペレータが検索キー2a又は逆方向検索キー4を押下して、CPU7に割り込みをかけて、ステップST12に戻り、上記ステップST12～ステップST18の一連の処理を行う。

このステップST12において、オペレータの押下キーが正方向の検索キー2aでなく、逆方向検索キー4であるから、ステップST19に移行し、ステップST19で逆方向検索キー4であるか否かの判断を行い、もし、逆方向検索キー4でなければ、ステップST20でスタートキー6であれば、ステップST21でディスプレイ1に表示されているダイヤル番号で原稿の送信を行い、ステップST20でスタートキー6でなければ、ステップST11に戻る。

また、ステップST19の判断の結果が逆方向検索キー4であれば、ステップST22で短縮ダイヤルXXのアルファベット順位が「1」であれば、ステップST23で短縮ダイヤル数(Number)を変数XにセットしてステップST16に進む。

ステップST22において、短縮ダイヤルXX

のアルファベット順位が「1」でなければ、ステップST24に進み、短縮ダイヤルXXのアルファベット順位-1を変数XにセットしてステップST16に進む。ST16～ST18の上述したのと同様の処理を行って第3図のステップST4で示すように、ディスプレイ1に短縮ダイヤル番号「03」と、電話番号「06125543」とそのアルファベットの名称「DAY」が表示される。

この表示内容がオペレータの希望する短縮ダイヤル番号とそのアルファベットの名称でなければ、第3図に示すように、検索キー2aを押して、上記第4図のステップST12～ST18の処理を行い、ディスプレイ1に第3図のステップST5で短縮ダイヤル番号「01」と電話番号「1235512」とそのアルファベットの名称「FLQW」を表示する。

この表示データがオペレータの希望する短縮ダイヤル番号と名称でなければ、再び検索キー2aとテンキー3の「0」、「1」を押し、上記と同

するようにしてもよい。

この実施例を第5図に示す。1はディスプレイ、2aは短縮ダイヤル番号とそれに対応するカタカナの名称を選びだすための検索キー、4は逆方向検索キーである。第6図はそのフローチャートである。

なお、この第5図の動作は第1図の動作と同じであり、アルファベットがカタカナに代わったのみであり、ディスプレイ1も名称がカタカナで表示される点異なるのみである。

また、第6図のフローチャートにおけるステップST31～ST36はそれぞれ第3図のステップST1～ST6と対応しており、したがってその説明を省略する。

また、短縮ダイヤル番号の登録の時に文字の名称の順位を付けることは、CPU7と簡単なプログラムとで実現できる。

〔発明の効果〕

以上のようにこの発明によれば、あらかじめ登録された短縮ダイヤル番号とそれに対応するアル

機の第4図のステップST12～ST18の処理を行って、ディスプレイ1にステップST6で短縮ダイヤル番号「02」と、電話番号「789123」とそのアルファベットの名称「CUBA」を検索し、これが希望とする短縮ダイヤル番号であれば、その短縮ダイヤル番号を使用して原稿の送信を行う。

このように、あらかじめRAM8に登録された短縮ダイヤル番号とアルファベットの名称を検索キー2aとテンキー3の操作あるいは逆方向検索キー4とテンキー3の操作を行うごとにディスプレイ1に短縮ダイヤル番号とそのアルファベットの名称が表示されるから、その表示内容から希望とする短縮ダイヤル番号を検索することができる。

以上の説明で、ディスプレイ1には電話番号も表示するようにしたが、なくてもよい。

なお、上記実施例では、短縮ダイヤル番号に対応する名称をアルファベットで登録して検索するようにした場合を例示したが、カタカナで短縮ダイヤル番号に対応する名称を登録してそれを検索

ファベットまたはカタカナ等の文字の名称を検索キーまたは逆方向検索キーとテンキーの操作でディスプレイに表示させてあらかじめ登録された文字の名称の順位をもとにして、所望の短縮ダイヤルを検索するように構成したので、簡単なキー操作で求める相手先番号を容易に検索できる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例によるファクシミリ装置のコントロールパネルを示す平面図、第2図は同上ファクシミリ装置におけるCPUとRAMの部分を示すブロック図、第3図は同上実施例によるディスプレイに短縮ダイヤル番号とそのアルファベットの名称の検索状態を説明するためのフローチャート、第4図は同上実施例におけるCPUの処理の流れを示すフローチャート、第5図はこの発明の他の実施例によるファクシミリ装置のコントロールパネルを示す正面図、第6図は第5図の実施例によるディスプレイに短縮ダイヤル番号とそのカタカナの名称の検索状態を示すフロ

ーチャート、第7図は従来のファクシミリ装置のコントロールパネルの正面図である。

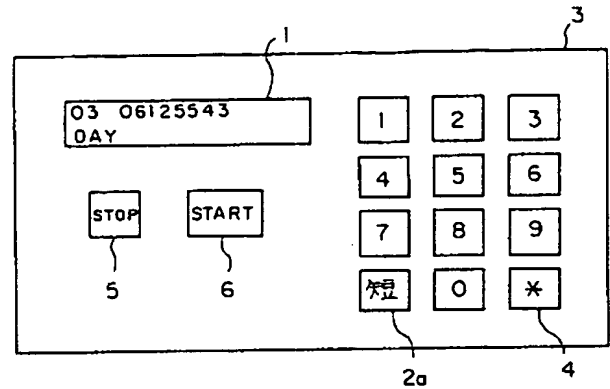
1はディスプレイ、2aは検索キー、3はテンキー、4は逆方向検索キー。

なお、図中、同一符号は同一、又は相当部分を示す。

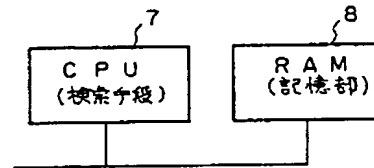
特許出願人 三菱電機株式会社
代理人 弁理士 田 澤 博 昭
(外2名)

- 1: ディスプレイ
- 2a: 検索キー
- 3: テンキー
- 4: 逆方向検索キー

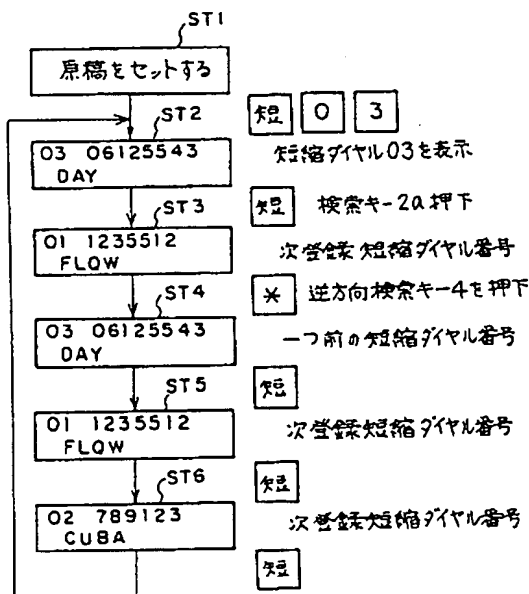
第1図



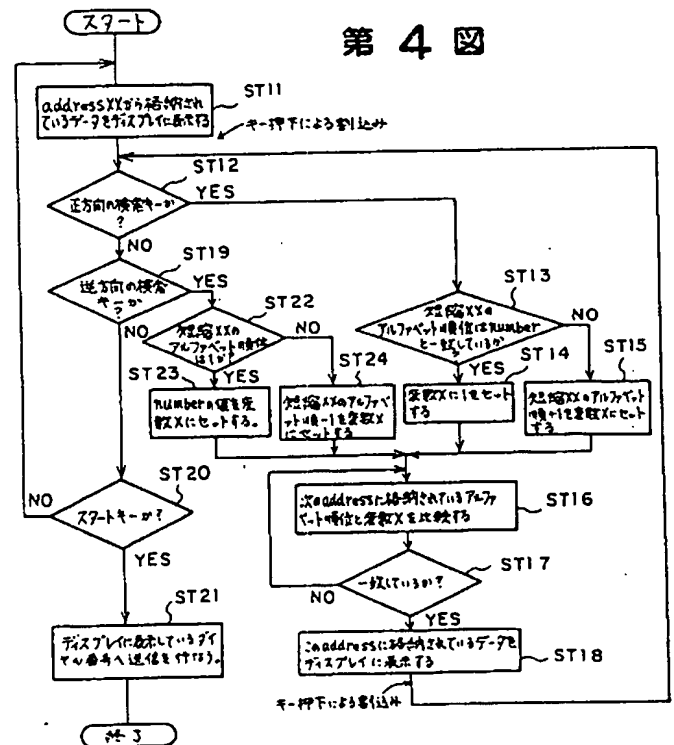
第2図



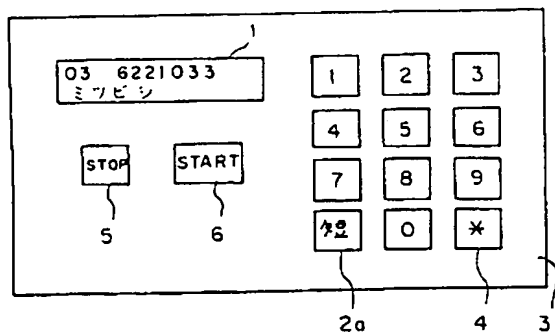
第3図



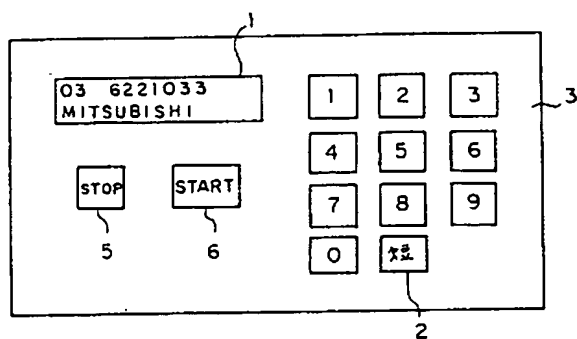
第4図



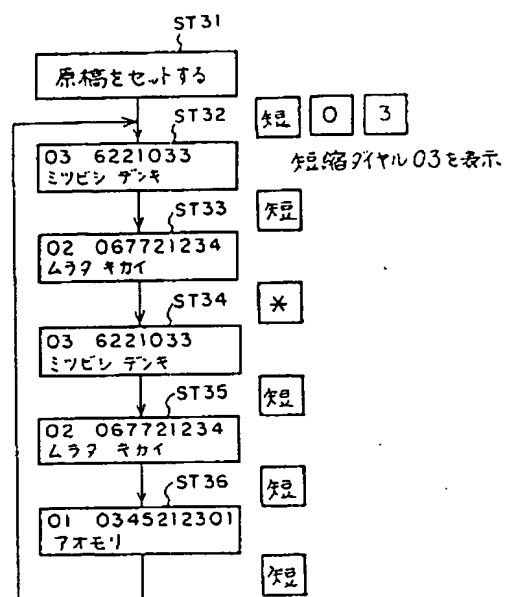
第 5 図



第 7 図



第 6 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.